

1 補聴器フィッティングの流れ

① 事前のコンサルティング

- 補聴器を使用したい動機、場面などを聞いて目標を設定



POINT!

- 家族の同伴をお願いする。
- 耳鼻咽喉科の受診(診療情報提供書)の有無を確認する。
- 予約時に聞こえの不自由さ、補聴器をどのように使用したいか等のメモを持ってきてもらう。
- 主訴は丁寧に詳細をヒヤリングする。ご家族からも同様に聞く。
- 補聴器の説明やフィッティング、貸出など店舗のサービスは丁寧に説明する。
- 大切な話は書いて渡す。

② 聞こえの測定

- 音の聞こえの測定



POINT!

- 緊張しないでリラックスできる環境を作る。
- 聞こえてもボタンが押せない場合は、一つの音圧の提示時間を延ばす、または挙手の方法をとる。

- ことばの聞き取りの測定



ことばの聞き取り用紙(語音弁別検査)

氏名	年齢	性別	検査日	検査場所	検査時間	検査結果
鈴木太郎	75	男	2023/10/10	〇〇〇〇	15分	75dBにて60%

※この表の裏面に書いて下さい

第1表 提示レベル90dB マスキング50dB 語音明瞭度55%

あ	さ	し	あ	た	に	よ	じ	う	く	ん	ず
あ	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん

第2表 提示レベル75dB マスキング35dB 語音明瞭度60%

さ	あ	た	ま	い	う	ん	ず	は	ば	て	わ	わ	が
あ	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん

第3表 提示レベル60dB マスキング20dB 語音明瞭度25%

に	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん
あ	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん	ん

ことばの聞き取り用紙

POINT!

- 震え等で筆記が難しい場合には、復唱に切り替える。
- 速くてついていけない場合には、音声提示を1語ずつ一時停止して答えを待つ。

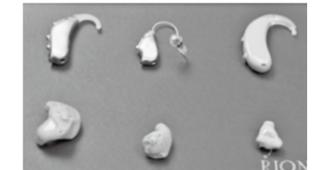
③ 補聴器の選択

聞こえの測定結果、お客様の主な訴えや希望、耳の状況、身体的状況などにより複数の補聴器から選択

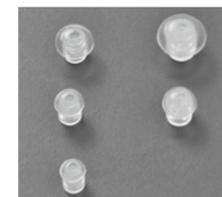


POINT!

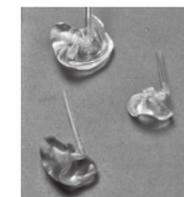
- 機種選択の理由などをご家族にも丁寧に説明する。
- 予算なども勘案して、本人とご家族の納得を得る。
- 付属品の選択や周辺機器の紹介も。



耳かけ型・耳あな型補聴器各種



耳せん



イヤモールド



リモコン・電話拡声器・充電器等



テレビ聴取用機器

④ 補聴器の調整



パソコンでの説明

- ・処方計算式の仮選択と調整(補聴器から出力する音の大きさを考える上で、最適な方式を選択し調整する)
- ・補聴器の設定(テレビを見るととき、電話を聞くととき等、状況に応じたプログラム設定)

POINT!

- 最初はうるさく聞こえること、慣れるまで時間がかかることを説明する。
- 毎日少しでも長い時間装着してもらうこと。
- 再調整を重ねて目標値を目指すことを説明。

⑤ 補聴効果の確認

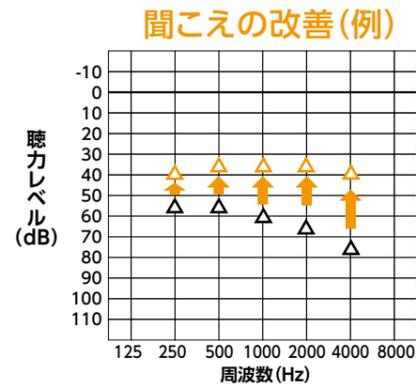
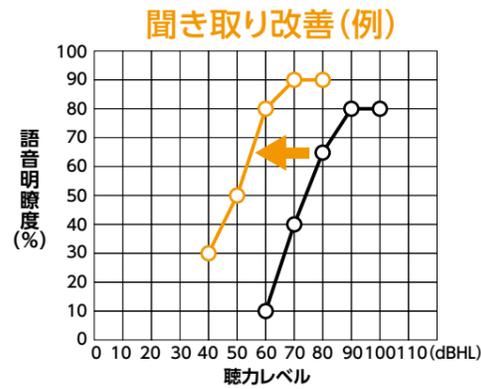


音場測定の様子

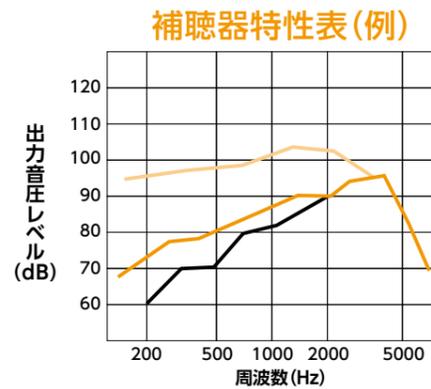
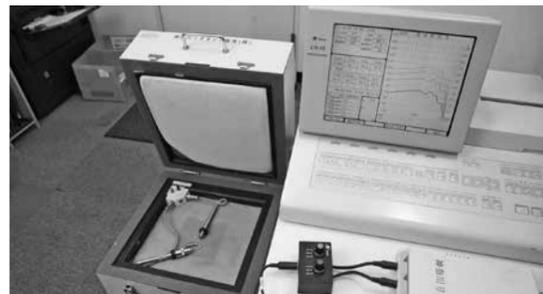
- ・補聴器を装着した状態での聞こえの測定(ことばの聞き取りなどの評価)

POINT!

- データに基づいた客観的評価を丁寧に説明することで効果を実感しやすくなります。
- ご自身の評価だけでなく、ご家族の評価も伺います。



・使用時の周波数特性の評価と記録



6 補聴器装用のケア



装着トレーニングの様子



電池の入れ方説明

- ・お客様・ご家族への長期ケア
- ・補聴器の管理や使用に関するトレーニング
- ・リハビリに関するアドバイスやコンサルティング

POINT!

- 補聴器の装着、操作方法、電池交換方法のトレーニング。
- 落下防止チェーンの提案。
- 収納ケースや乾燥ケースにしまう習慣づけ。(紛失防止と故障予防)
- 補聴器で聞きやすい環境の説明。
- 話し方は、通常よりもゆっくりはっきり、意味や文節ごとに区切って話す。
- 注意喚起を促してから話しかける。
- 補聴器に慣れるまでの配慮。(うるさくてもできるだけ長い時間装着するように家族のはげまし)
- 目標を達成するまで再調整。(来店予約を忘れないように予約カード等を活用)

2 認定補聴器技能者インタビュー



認定補聴器技能者 新井高志さん

Q&A

- Q. 高齢のお客様への対応では、どのようなことに気をつけていますか？
- A. “書いて残す”ということを特に気をつけています。口頭だけではどうしても忘れてしまうことがあります。当店では来店予約もパソコンで管理しており、予約票がA4用紙で印刷されるのですが、その余白に忘れてほしくないことを手書きでメモしてお渡しするようにしています。
- Q. 紛失に関して何かいい対策はありますか？
- A. 落下防止チェーンやケースの利用など色々ありますが、何をしても失くしてしまう方が一定数います。そうした方にも補聴器装着を継続していただくにはご家族のサポートが欠かせません。
- Q. 金銭のやり取りや契約関係はいかがでしょうか？
- A. お金に関することは基本的にご家族に同席していただき、お電話等でご承諾を取っています。お客様によってはご本人に気づかれないようにご家族にご連絡する等の配慮も必要です。日頃から家族の方などと連携を取り、お客様一人ひとりに合わせた対応が補聴器の継続使用につながっていると思います。
- Q. 難聴の自覚の乏しい方、もしくは本人が必要感をあまり感じていない方に対して、補聴器装着に意欲を持ってもらうためにはどのような工夫をされていますか？
- A. 家族の方や周囲の方が困っていることを認識していただき、補聴器の必要性を冊子などで説明します。できれば家族の方や介助者へも同様の説明をし、補聴器について理解を求めています。補聴器を装着したらどうなるか、具体的に思い描いて目標を設定し、意欲を持ってもらいます。
- Q. 高齢者のフィッティングではどのようなことに気をつける必要がありますか？
- A. 加齢性の難聴には、音が聞こえても言葉として聞こえないという明瞭度の問題がありますが、あらかじめ耳鼻咽喉科を受診してお医者様から難聴の程度や特徴の説明を受けていざやると、「補聴器で昔の聞こえに戻る」というような誤解もなく、補聴器装着の目標がはっきりして、結果的に効果を実感しやすくなると思います。病気の有無だけでなく、そうしたことから装着前には耳鼻咽喉科の受診をお勧めしています。

3 店舗での高齢のお客様への配慮の例



- 1 店舗入口………バリアフリーに配慮
- 2 試聴時の貸出し確認書・期間や紛失時の規定等を明記
- 3 相談用の個室………プライバシーに配慮
- 4 次回の来店予約票………場合によってご本人だけでなくご家族にもお知らせ
- 5 補聴器取扱いの説明………ポイントを簡潔に
- 6 落下防止チェーン………マスクやメガネに引っかかって落ちるのを防止
- 7 補聴器の表示………通常右は赤、左は青の印をつける。製造番号が刻印されており個体識別できる。氏名の刻印ができる場合もある。